

## 愛臨技学部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 5 年 4 月 15 日 報告者：河内 誠

行事種別	研究会	行事番号	230000162	
開催日	令和 5 年 4 月 1 日 (土)			
時間	開始	14 時 30 分	終了	17 時 30 分
場所	所在地 名古屋市 JA あいちビル 14 階大会議室			
テーマ	頻出菌を学びなおす-同定が治療に直結する菌 腸球菌とカンジダ-			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	JA 愛知厚生連江南厚生病院 河内 誠 技師			
講師	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 腸球菌 同定と感受性 一宮市立市民病院 木村 達也</li> <li>2. 腸球菌 感染症と治療 JA 愛知厚生連安城更生病院 杉浦 康行</li> <li>3. カンジダ 同定と感受性 八千代病院 山口 杏理沙</li> <li>4. カンジダ 感染症と治療 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 原 祐樹</li> </ol>			
内容	<p>昨年度に引き続き本年度も、感染症の頻出菌を改めて学び直す場を提供することを主な目的とし、研究会を企画している。本研究会はその第 5 弾という位置づけであった。</p> <p>腸球菌とカンジダ属は、同定結果がそのまま治療薬の選択に直結することが多い菌の代表格である。そのため、微生物検査室が正確に検出・同定することが求められる。</p> <p>講演 1 では、腸球菌について、菌の同定方法ならびに薬剤感受性の傾向について学び、続けて講演 2 では、腸球菌の起こす感染症と治療について講演を行った。</p> <p>講演 3 では、カンジダ属について、菌の同定方法ならびに薬剤感受性の傾向について学び、続けて講演 4 では、カンジダ属の起こす感染症、治療について講演を行った。</p> <p>現地開催ならではの熱量の高い講演と多くの質疑応答があり、有意義な会であった。</p>			
参加者	総数：46 名（会員 46 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名、）・申込総数：59 名			
共催、後援など	なし			

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 5 年 7 月 24 日 報告者：河内 誠

行事種別	研究会	行事番号	230002669	
開催日	令和 5 年 7 月 1 日 (土)			
時間	開始	14 時 00 分	終了	17 時 00 分
場所	所在地 名古屋市 JA あいちビル 14 階大会議室			
テーマ	頻出菌を学びなおす-劇症型を示す菌- A 群溶連菌と K. pneumoniae -			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	小牧市民病院 西尾 美津留 技師			
講師	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. A 群溶連菌 同定と感受性 刈谷豊田総合病院 安藤 真帆</li> <li>2. A 群溶連菌 感染症と治療 JA 愛知厚生連江南厚生病院 河内 誠</li> <li>3. K. pneumoniae 同定と感受性 JA 愛知厚生連豊田厚生病院 加藤 雄大</li> <li>4. K. pneumoniae 感染症と治療 名古屋掖済会病院 市川 佳保里</li> </ol>			
内容	<p>昨年度に引き続き本年度も、感染症の頻出菌を改めて学び直す場を提供することを主な目的とし、研究会を企画している。本研究会はその第 6 弾という位置づけであった。</p> <p>A 群溶連菌と K. pneumoniae は、頻繁に検出される菌であるが、稀に劇症型を示し致命的になり得る菌である。そのため、病原性について深く理解することが求められる。</p> <p>講演 1 では、A 群溶連菌について、菌の同定方法ならびに薬剤感受性の傾向について学び、続けて講演 2 では、A 群溶連菌の起こす感染症と治療について講演を行った。</p> <p>講演 3 では、K. pneumoniae について、菌の同定方法ならびに薬剤感受性の傾向について学び、続けて講演 4 では、K. pneumoniae の起こす感染症、治療について講演を行った。現地開催ならではの熱量の高い講演と多くの質疑応答があり、有意義な会であった。</p>			
参加者	総数：45 名（会員 45 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名、）・申込総数：51 名			
共催、後援など	なし			

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 5 年 8 月 17 日 報告者：河内 誠

行事種別	基礎講座	行事番号	230003503	
開催日	令和 5 年 8 月 6 日 (日)			
時間	開始	9 時 00 分	終了	17 時 00 分
場所	所在地 名古屋市 名古屋大学大学院医学系研究科 基礎研究棟 3 階			
テーマ	考動へ！使える力を身につけよう。微生物検査の仕事術			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	JA 愛知厚生連江南厚生病院 河内 誠 小牧市民病院 西尾 美津留			
講師	1. 塗抹 公立陶生病院 廣瀬 明宏 2. 培養 日赤愛知医療センター名古屋第二病院 山田 直輝 3. 同定 JA 愛知厚生連安城更生病院 杉浦 康行 4. 薬剤感受性 豊橋市民病院 山本 優			
内容	<p>微生物検査経験年数 3 年以下を対象とし、一つ一つの検査について、なぜその検査を行っているのか、検査結果にどういう意味があるのかを再考してもらう内容として基礎講座を企画した。</p> <p>午前の講義では、微生物検査における一連の基礎知識を凝縮し、講義を行った。</p> <p>午後の実習では、検査開始から最終報告するまでの一連の流れを通して、班員がコツやひと手間をアドバイスしながら、どのように考えて検査を進めていくか、臨床に貢献できる情報をどのように得て伝えることができるか、検査に有益な情報を電子カルテなどから得ることの重要性などを、実習を通して体感いただいた。</p> <p>参加者のほとんどが、初めて基礎講座を体験する方であり、初めは戸惑いもあったものの、同程度の経験年数によって初級と中級を分け、参加者 4~5 名につき班員 2 名が担当することで、手厚い実習を行うことができた。</p>			
参加者	総数：28 名（会員 25 名、県外会員 3 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名、）・申込総数：29 名			
共催、後援など	なし			

2022.10.12

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 5 年 9 月 30 日 報告者：河内 誠

行事種別	研究会	行事番号	230007899	
開催日	令和 5 年 9 月 2 日 (土)			
時間	開始	14 時 00 分	終了	17 時 00 分
場所	所在地 名古屋市 JA あいちビル 14 階大会議室			
テーマ	頻出菌を学びなおす-嫌気性菌-			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	豊橋市民病院 山本 優 技師			
講師	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 横隔膜より上の嫌気性菌 同定と感受性 西尾市民病院 鈴木 更織</li> <li>2. 横隔膜より上の嫌気性菌 感染症と治療 日赤愛知医療センター名古屋第二病院 原 祐樹</li> <li>3. 横隔膜より下の嫌気性菌 同定と感受性 名古屋掖済会病院 市川 佳保里</li> <li>4. 横隔膜より下の嫌気性菌 感染症と治療 愛知医科大学病院 坂梨 大輔</li> </ol>			
内容	<p>昨年度に引き続き本年度も、感染症の頻出菌を改めて学び直す場を提供することを主な目的とし、研究会を企画している。本研究会はその第 7 弾という位置づけであった。嫌気性菌は、臨床で頻りに遭遇する菌ではあるが、その取扱や意義の解釈は難しく、そのため施設間差が大きいものの一つである。</p> <p>講演 1 では、横隔膜より上の検体から検出される嫌気性菌について、菌の同定方法ならびに薬剤感受性の傾向について学び、続けて講演 2 では、感染症と治療について講演を行った。</p> <p>講演 3 では、横隔膜より下の検体から検出される嫌気性菌について、菌の同定方法ならびに薬剤感受性の傾向について学び、続けて講演 4 では感染症、治療について講演を行った。</p> <p>現地開催ならではの熱量の高い講演と多くの質疑応答があり、施設間差の是正に向けて、大変有意義な会であった。</p>			
参加者	総数：52 名（会員 52 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名、）・申込総数：55 名			
共催、後援など	なし			

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 5 年 12 月 19 日 報告者：河内 誠

行事種別	講演会	行事番号	230015641	
開催日	令和 5 年 12 月 16 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 30 分
場所	所在地 名古屋市 JA あいちビル 14 階大会議室			
テーマ	抗菌薬適正使用支援を再考する			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	JA 愛知厚生連江南厚生病院 河内 誠 技師			
講師	<p>1. グラムスキー薬局の取組 -グラム染色は抗不安薬になり得るのか-</p> <p style="padding-left: 2em;">グラムスキー薬局 管理薬剤師 瀧藤 重道</p> <p>2. 抗菌薬の適正使用と診断の質向上-臨床検査技師の重要な役割-</p> <p style="padding-left: 2em;">愛知県がんセンター 感染症内科部 医長 伊東 直哉</p>			
内容	<p>本年度の講演会では、「抗菌薬適正使用支援を再考する」というテーマを取り上げた。3 年以上続いたコロナ禍が一区切りを迎えた今、今一度微生物検査技師の本質に立ち返り、臨床に貢献できる微生物検査技師を改めて目指すきっかけとして、医師ならびに薬剤師の立場からお話を伺い、微生物検査ならびに微生物検査技師に求められているものを認識することを目的として本講演会を企画した。</p> <p>講演 1 では、在宅医療の現場でグラム染色を活用する取り組みを行っている瀧藤先生からお話を伺った。病院薬剤師と接する機会は多いが、在宅医療に関わる薬剤師とお話する機会はめったにないことから、大変興味深い内容であった。またグラム染色の可能性について再考する良いきっかけとなった。</p> <p>講演 2 では、感染症内科医の立場から、微生物検査技師に求められる技術と意識についてお話を伺った。講演中ではアンケート機能を利用し、双方向のディスカッションが行われた。Diagnostic Stewardship (DS) の主役は臨床検査技師であるとの心強いメッセージを頂いた。</p> <p>現地開催ならではの熱量の高い講演と多くの質疑応答があり、大変有意義な会であった。</p>			
参加者	総数：56 名 (会員 56 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名、) ・申込総数：54 名			
共催、後援など	なし			

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 6 年 2 月 20 日 報告者：河内 誠

行事種別	研究会	行事番号	230021895	
開催日	令和 6 年 2 月 3 日 (土)			
時間	開始	14 時 00 分	終了	17 時 00 分
場所	所在地 名古屋市 JA あいちビル 14 階大会議室			
テーマ	頻出菌を学びなおす-抗酸菌-			
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点			
司会	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 原 祐樹 技師			
講師	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和 5 年度愛臨技精度管理報告 小牧市民病院 西尾 美津留</li> <li>2. 抗酸菌 培養、同定、遺伝子検査 JA 愛知厚生連安城更生病院 杉浦 康行</li> <li>3. 結核菌群 感受性、感染症と治療 豊橋市民病院 山本 優</li> <li>4. 非結核性抗酸菌 感受性、感染症と治療 JA 愛知厚生連江南厚生病院 河内 誠</li> <li>5. 迅速発育抗酸菌 感受性、感染症と治療 公立陶生病院 廣瀬 明宏</li> </ol>			
内容	<p>昨年度に引き続き本年度も、感染症の頻出菌を改めて学び直す場を提供することを主な目的とし、研究会を企画している。本研究会はその第 8 弾という位置づけであった。抗酸菌は、その取扱いの煩雑さなどから外部受託に移行しつつあるため、実際に触れることが少なくなっている。今回改めて抗酸菌の基礎を学び、検査法を考え直す場とした。講演 1 では、毎年恒例となっている令和 5 年度愛臨技精度管理報告を行った。講演 2 では、抗酸菌全般の培養・同定方法を学んだ。講演 3 から 5 では、抗酸菌を結核菌群、非結核性抗酸菌、迅速発育抗酸菌の 3 つに分け、それぞれの薬剤感受性、感染症と治療について講演を行った。</p> <p>今年度もっとも多い参加人数となり、抗酸菌に対する疑問の多さが伺われた。現地開催ならではの熱量の高い講演と多くの質疑応答があり、大変有意義な会であった。</p>			
参加者	総数：61 名（会員 61 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名、）・申込総数：65 名			
共催、後援など	なし			